



▲完成した新キャンパス

4月に開学する吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部で3月9日、完成を記念した竣工式が開催され、大学や地元住民、県市関係者など約300人が出席して開学を祝いました。



▲地域創成農学部の発展を祈る関係者たち



▲力強くオープニングの太鼓が鳴り響いた

講演で6次産業化を目指すことで地域の活性化につながるも開催されました。

続いて「農を主軸とした地域再生」と題して皆川芳嗣農林水産事務次官による記念講演も開催されました。

兵庫県内25のキャラクターからベスト10を決める神戸新聞社企画「兵庫県内キャラクター総選挙」が行われました。市の子育て応援シンボルキャラクターのゆめるんも立候補



▲選挙活動を行うゆめるん

### ゆめるんが「兵庫県内キャラクター総選挙」で第2位!!



▲皆川事務次官が記念講演

る事例を紹介した皆川事務次官は、続けて「南あわじ地域は資源の宝庫である。同学部と地域が連携し、この資源を活用してさまざまなことに取り組み」と力強く話してくれました。

し、みごと第2位にランクインしました。2月28日～3月10日の投票期間中にゆめるんは、各種イベントや市内ショッピングセンター等で積極的に選挙活動を行いました。多くの人が買い物途中にも関わらず足を止め、可愛らしいゆめるんに1票を投じていました。



結果発表 ゆめるんの部屋 検索

今回の結果にゆめるんは「銀メダル気分。次は全国グランプリをめざします」とうれしそうに話してくれました。

テレビの幼児番組で人気の「ケロボンズ」を招いて、ゆめるんフェスティバルが3月10日、文化体育館で開かれました。午前と午後の2回の公演では約1200人が参加。パネルを使つての歌や楽器演奏、動物の鳴き声や動作を真似る遊びなど、家族も一緒に楽しむことができました。また、警察署や消防署等の協力で煙体験のブースや白バイ、パトカー、消防車の展示など防災や交通安全の啓発も行われました。



▲約1200人の家族が参加して一緒に楽しんだ「ゆめるんフェスティバル」



▲ケロボンズの2人

### 吉備国際大学南あわじ志知キャンパスが竣工

### ゆめるんフェスティバルを開催

## 施政方針

～地域創成への始動の年～

## 元気な南あわじづくり

第46回市議会定例会が2月25日に招集され、中田勝久市長が平成25年度施政方針と予算案を提案しました。その概要をお知らせします。

なお、施政方針の全文と予算の詳細は、市ホームページからご覧いただけます。(予算と主要事業の記事は8～11頁)



▲施政方針に望む中田市長

市長として市民の皆様から三期目の負託をいただきました。政治生命の全てをかけて市長という責務を全うしてまいります。覚悟でございます。

私が3度目の市長をめざしたのは大きく二つの理由があります。一つ目は、新庁舎建設や大学学部開設をはじめ、数多くのプロジェクトの推進や防災対策、少子対策などを提唱し実行してまいりましたが、最後まで責任を持ち着実に成果を上げ、将来への道筋をつけなければ南あわじ市の将来はないと考えたからです。

二つ目には、長寿社会を迎え、まちづくりにとって欠かすことのできないのはシニアパワーであり、私が先頭を切ってその役割を果たすべきであると考えたからです。

行政運営は、現実主義を徹底し具体的に形にしていかなければなりません。正念場を迎える今年には、「地域創成への始動の年」と位置づけ、中田市政総決算への道として「元気な南あわじづくり」に挑戦してまいります。

### 地域を創成するための基礎づくり

少子高齢化は人口構成に大きな変化をもたらし、雇用基盤の弱体化は地域の持続そのものを脅かしています。将来世代にこのすばらしい南あわじ市を引き継ぐために今必要なのは強固な産業基盤の構築です。

産業を再生し起業を促進するためには、過去から受け継いだ地域資産を基盤に視点と発想を転換しながら新しく創造する

ことが急務であり、所得の安定と職づくりをめざさなければなりません。国が進めようとする経済再生、成長戦略などの施策を貪欲に活用するとともに、新しく開校する吉備国際大学地域創成農学部の先生方と連携を密にし、多様性に富んだあらゆる仕掛けづくりに挑戦してまいります。また、淡路島まるごと食の拠点施設や若人の広場の公園化、観光資源の連携活用やあわじ環境未来島構想の推進等により市民や産官学民連携による大きなうねりを引き起こし、地方ならではの総合的産業の創成をめざします。

仕組みの創成として、新庁舎の建設、市民交流センターの設置、分庁舎跡地利用により市民参加と地域間の競争意識を高め、市内4箇所まで自治会等との出前行政懇談会を実施し、活力あるまちづくりへの創成に力を注ぎます。

### 安全で安心な「安心なまちづくり」の創成

行政の最大の責務は、市民の生命財産を守り健康で幸せに暮らせるまちを創り上げることです。

東日本大震災の教訓に学び、南海トラフ巨大地震や風水害に対する備えを強化するため、ソフト・ハード事業の連動によるより一層の防災対策に取り組んでまいります。

快適な生活環境は市民の願いです。暮らしの安心を高めるため、老朽化したインフラを改善し、高齢者・学生の移動手段の見直しや安全な生活道路の整備など

をすすめます。また、健康づくりや生活弱者対策など暮らしの安心を確保するための努力を重ね、焼却施設の統合に向けた整備など生活基盤の創成に努めます。子育て及び教育環境の充実が将来への投資です。少子対策の拡充や教育施設の再編をすすめる次世代を育てる基盤の創成に挑みます。

### 持続可能な行財政基盤の創成

人口減少・少子高齢社会を迎え、構造的な難題を数多く抱えながら、国においては社会保障・税一体改革を取りまとめ「支えあう社会」の再構築をめざしております。

本市においても、市民の皆様のご協力により行財政改革大綱に基づく各種計画を実行に移し、総人件費や公債費の削減などによる行財政基盤の安定化を順調に進めてまいりました。しかし、まだまだ道半ばです。逆ピラミッド化した人口構成や不安定な経済状況がもたらす課題を解決するために、地域活性化や成長できる分野に「選択と集中」を念頭に置いた事業を展開し、行財政改革後期実施計画の策定により中長期的視野に立った強固な行財政基盤の創成をすすめます。

行政組織のスリム化と同時に、地域の实情に最も精通した市民、団体組織、NPO、企業等が中心となり、地域資源や知恵を生かした機動的な活動を奨励し、自立と共生を目的とした市民主導型のまちづくりを支援してまいります。